

東山旧岸邸 キノ・イグルー特別展示 「Kino Iglu～2人ではじめた移動映画館～」

会期:2021年11月3日(水祝)～ 11月23日(火祝)

主催:御殿場市東山旧岸邸

会場:東山旧岸邸

助成:文化庁 ARTS for the future!

協力:Kino Iglu

本日は「Kino Iglu～2人ではじめた移動映画館～」にお越しいただきありがとうございます。

2003年に誕生した「移動映画館Kino Iglu」は代表の有坂壘氏と中学校の同級生、渡辺順也氏の2人による活動です。

映画館という既存の枠を飛び越え、美術館やカフェ、酒蔵や無人島など全国各地で世界中の映画を上映し、2016年に開催された東京国立博物館での上映会は2日で6,500名を超える人たちが参加し、世界最大規模の野外上映会となりました。

ここ東山旧岸邸でも夜間の庭園を舞台に、Kino Igluセレクトによる映画上映会を3回行ってきました。そのどれも参加者から多くの喜びの声を頂きました。

「その日に」「その場所で」「その時集った人たちと」「その時の自分で」出会う1本の映画とそこから生じた感情は、参加した人の心に唯一無二の映画体験として記憶されているのではないのでしょうか。そんな宝石のような体験を全国各地に散りばめてきたKino Igluの活動を、ふたりへのロングインタビューを中心に東山旧岸邸内でご紹介します。

映画愛溢れる2人の青年がはじめた移動映画館。彼らの活動の軌跡から「映画」の世界の豊かさを感じ、あなたの心にある映画スイッチが入れば幸いです。

No.	展 示	所 蔵
1	映画『希望のかなた』パンフレット	有坂壘
2	映画『浮雲』パンフレット	有坂壘
3	映画『クール・ランニング』パンフレット	有坂壘
4	映画『クール・ランニング』フライヤー	有坂壘
5	映画『桜桃の味』パンフレット	有坂壘
6	映画『ブロードウェイと銃弾』パンフレット	有坂壘
7	遠山 純生 編『アキ・カウリスマキ』	有坂壘
8	Peter von Bagh 著『AKI KAURISUMÄKI』	有坂壘
9	Kino Igluイベントフライヤー	渡辺順也
10	展示室本棚内の本類	有坂壘

パネル原稿は会期終了後、東山旧岸邸ホームページで公開いたします。(公開日2021年12月1日)

東山旧岸邸 キノ・イグルー特別展示 「Kino Iglu～2人ではじめた移動映画館～」

移動映画館「Kino Iglu」は全国の雑貨屋、カフェ、書店、美術館、お寺など様々な空間で映画を上映し、様々なアーティストとのコラボレーションや映画祭のディレクション、こどもえいがかいなども手がけ、自由な発想で映画の楽しさを伝えています。

裏年表は偏った編集です。2003年以降の「・・・」の中にキノ・イグルーで行った様々な活動や挑戦、喜びが沢山詰まっています。

更に詳しく知りたい方は、ふたりのインスタグラムやホームページをぜひご覧ください。

有坂 壘 (1975.5.24 双子でふたご座)

歌舞伎町生まれ→豊島園→練馬区光が丘育ち

好きな食べ物: ミートソーススパゲッティ(即答)

職業: 移動映画館 Kino Iglu 代表



@kinoiglu

渡辺 順也 (1975.6.20 ただのふたご座)

足立区生まれ→練馬区光が丘育ち

好きな食べ物: 寿司(悩んで)

職業: Kino Iglu / Filmmarks プロデューサー



@kinoiglu_junyawatanabe



「#キノイグルーのねおきシネマ」
「#有坂壘の酒場放浪記」
「#キノイグルーのポスターデザイン」
「#キノイグルーのポスター」
個性的なハッシュタグで「映画」の世界を様々な視点から惜しみなく発信。「#キノイグルーの誰かのこぼれ」は心の疲れを癒してくれます。

★アマゾンプライムで見られるおすすめ映画
★青色の映画ポスター4枚で映画紹介
★映画人の誕生日
★気になる映画ニュース
映画鑑賞欲を刺激されるテーマと「！」マーク多めの推薦文ですぐに映画を見たいくなるページが並ぶ。2021年1月2日から開始したほやほやアカウント

October 13th, 2020 @Inokashita Park



井の頭公園で取材のときの2人
映画『グーグーだって猫である』のラストシーンに登場する公園内のカフェ、ベベカフェでお話を伺いました。



好きな食べ物を考え込む渡辺さん。
この日はそろってネイビー×トートバック。
靴下まで行き届いたおしゃれな二人。

Kino Iglu ふたりの活動年表 (ある視点から)

- 1982年 有坂塁(以下、有坂)7歳、双子の兄と『ゲーニーズ』を見て感激し、映画館再訪を切望するも観たのは『E.T.』。この時の経験から映画が大嫌いになる。
- 1985年頃 ファミコンブームの到来。有坂、ゲームに目覚める。全国大会出場を果たすなど相当な腕前を発揮。
- 1988年 有坂と渡辺順也(以下、渡辺)が中学校の同級生となる。有坂、サッカーを本格的にはじめる。
- 1988年 中学1年生の渡辺、ジャッキー・チェンに大いに感化される。ジャッキーの新作を観るために、荒川区の友達と自転車で片道3時間かけて映画館へ行く。「早朝に出て帰りは真っ暗だった。もっと近くでも上映していたと思う」(渡辺回想)
- 1993年 有坂、高校でもプロを目指しサッカーを続け、卒業直前に東京ガス(現FC東京)に双子の兄とそろって入団。しかし、バブルが弾け契約が流れてしまう。スポーツヘルニアの治療を終えサッカー専門学校へ進学する。
- 1993年頃 渡辺、バーテンのバイトを始める。体育会系の職場で鍛えられる。一方、自身で稼いだお金で自由に映画を見られる喜びを味わう。映画を観まくる日々。
- 1994年ある日 有坂、彼女に見たいと押され『クールランニング』を鑑賞し映画館で雷に打たれる(心象)
“自分の居場所”を映画に発見!!!!!!!
- 1994年ある日の翌日 有坂、この日から映画館へ通いつめすっかり映画にハマっていく。
- 1995年 成人式を境に有坂と渡辺、映画の話で急接近!
- 1997年 渡辺、大学卒業後はエンタメ系広告代理店に就職する。またも体育会系の職場で更に鍛えられる。
- 2001年 2人の憧れ、アキ・カウリスマキ監督が来日した際のパーティーに参加する。
アキ監督に見た目であだ名を付けてもらう。有坂は「エスキモー」渡辺は「メキシカン」
- 2002年12月 アキ監督に自分達の活動団体の命名をお願いする手紙を送る。
- 2003年1月 アキ監督の事務所スタッフから「Kino Iglu」命名の連絡をもらう。
「こんな素敵な事が人生に起こるんだ」(有坂回想)。こうして「Kino Iglu」が誕生する。
- 2003年5月 “キノ・イグルー初のイベント開催”
- ・
・
・
・
- 2人で1万枚のイベントフライヤーを配る。(鎌倉まで)
「どっちがキノでどっちがイグルーですか?」とお客さんに聞かれる。
「木下さんのグループかと思っていました」とお客さんに言われる。
お菓子付き映画イベントの募集をした際、“お菓子のイベント参加希望”とメールが届く。
- ・
・
・
- 2006~7年頃 大手テーマパーク運営会社よりイベントの誘いが入るも、熟慮の上断る。
- ・
・
- 2011年3月11日 有坂、今後の拠点となる吉祥寺に移り住む。同日に東日本大震災が発生。2011年震災より3週間後 「いまだからこそやれるイベントがある、やるからには思いっきり」と6日間、吉祥寺の文房具店「36サブロー」でイベントを開催する。
- ・
・
- 2014年 東京国立博物館「博物館で野外シネマ」第1回を開催。以後、定期的に行われる。
- 2016年 「博物館で野外シネマ」2日で6,500人の参加者が集い、歴史に残る野外シネマ上映となった。